

平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	人	算数	人	理科	人
第5学年	国語	人	算数	人	理科	人

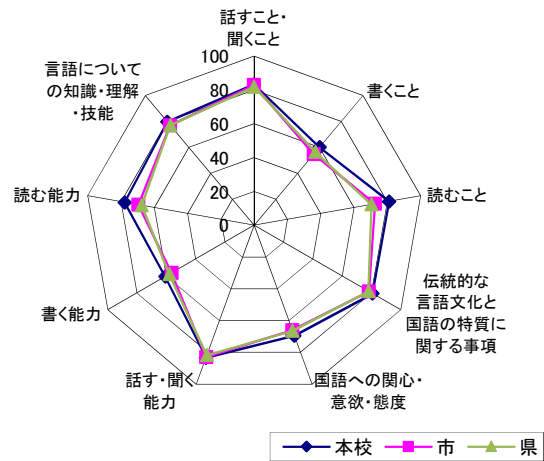
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原北小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	83.3	82.9	81.8
	書くこと	60.2	54.8	56.5
	読むこと	81.0	72.6	70.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	80.8	78.4	78.1
観点	国語への関心・意欲・態度	69.4	66.0	66.4
	話す・聞く能力	83.3	82.9	81.8
	書く能力	60.7	56.3	57.9
	読む能力	77.8	69.5	67.6
	言語についての知識・理解・技能	79.8	77.2	77.1



★指導の工夫と改善

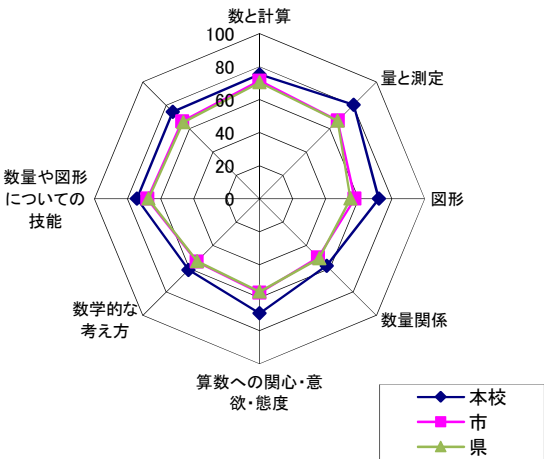
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均と同じである。 ○話し方の工夫に注意して聞き取ることは十分理解できている。 ○話の中心に気を付けて聞き取ることができる。 ●話し合いにおける考えの共通点や相違点を整理して話すことは苦手な児童が見られる。	・話し合い活動の際に、自分の考えと友達の考えを比較しながら聞く活動をさらに増やして一層の習熟を図る。 ・話し合い活動では、友達の意見につなげて自分の考えを発表するなど表現する力を高める。
書くこと	平均正答率は、市の平均より高い。 ○書こうとすることの中心を明確にして文章を書くことができる。 ○意見をもとにポスターの文を書くことができる。 ●必要な条件を選んで指定された字数の中で書くことが苦手な児童が見られる。	・文章を書く活動では、字数を意識して書く機会を多く設けるよう工夫する。 ・振り返りカードや新聞・ポスター制作など、書く活動に取り組む際、伝えたい内容が相手に伝わるように意識して書かせるようにする。
読むこと	平均正答率は、市の平均より高い。 ○登場人物の気持ちを想像して読み取ることができる。 ○文章の内容を的確に読み取ることができる。 ●段落のまとまりを理解し、文章の内容を的確に読み取ることができない児童が見られる。	・説明文の中心となる言葉に注目して内容を捉え、要点をまとめる活動を取り入れる。 ・文章のあらすじをまとめたり、友達に紹介したりする文を書く活動を随時取り入れる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○指示語の使い方、漢字辞典の使い方を理解することができる。 ●修飾語の使い方、漢字の読み取りの理解が十分でない児童が多い。	・新出漢字を学ぶ際、様々な読み方にふれたり、既習の漢字を使った熟語を作らせたりするなど工夫し、定着を図る。 ・主語と述語の働きを改めて確認し、修飾語の理解へとつなげる。言葉を文中から抜き出し、仲間分け活動を行うことで修飾語の種類と役割を正しく理解させる。

宇都宮市立清原北小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	75.4	71.5	70.4
	量と測定	80.6	67.0	66.9
	図形	72.2	57.6	55.0
	数量関係	57.4	50.2	51.1
観点	算数への関心・意欲・態度	69.4	57.0	56.3
	数学的な考え方	60.9	53.8	53.6
	数量や図形についての技能	74.3	68.0	67.4
	数量や図形についての知識・理解	74.4	66.3	65.4



★指導の工夫と改善

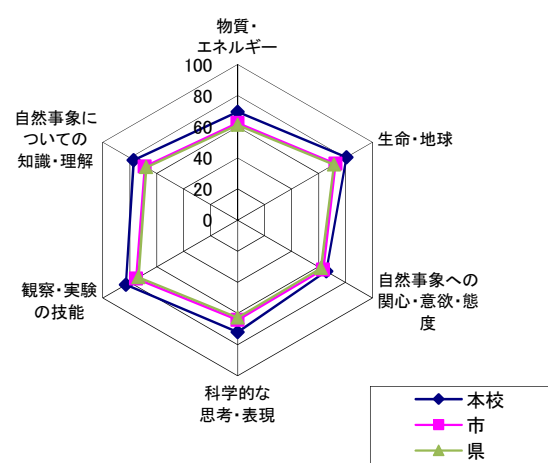
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○分数や小数を用いた基本的な計算の仕方が身に付いている。 ●ある数は基準の大きさの何個分かという相対的な大きさを求める問題で躓いた児童がいる。	・計算の仕方が着実に身に付くよう、朝の学習等を利用し、復習していく。 ・位取り表を活用した比較の仕方について確認し、相対的な大きさの求め方を理解できるようにする。
量と測定	平均正答率は、市の平均より10ポイント以上高い。 ○面積や角の大きさの求め方について十分理解できている。 ●身近にあるもののおよその面積を理解できていない児童もいる。	・身近にあるものの大きさを実際に求めてみるとともに、測らずとも長さを推測し、およその面積を求める練習をさせる。
図形	平均正答率は、市の平均より10ポイント以上高い。 ○いろいろな形の性質を理解できている。 ●地図から情報を読み取り、平行四辺形の特徴を使って2つの道のりが等しくなる理由を説明できない児童が多い。	・今回の調査で出題された図形だけでなく、他の平面、立体図形の性質について確認する。 ・図や複数の説明を読み取り、課題について筋道を立てて考えながら、練習問題に取り組ませる。 ・普段の学習の中で、自分の考えを書いたり、発表したりする機会を設けていく。
数量関係	平均正答率は、市の平均より高い。 ○分配法則について理解している。 ●伴って変わる2つの数量の関係を表から読み取れない児童がいる。 ●折れ線グラフと棒グラフから読み取ったことを説明することができない児童が多い。	・表や図に表す、具体物を操作する活動を取り入れ、2つの数量関係について考えるようにする。 ・2つのグラフを関連させて読み取る学習を取り入れるとともに、自分の言葉で表現する場を設けていく。

宇都宮市立清原北小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	69.6	62.4	61.1
	生命・地球	80.7	72.5	71.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	65.7	63.4	61.7
	科学的な思考・表現	71.9	64.1	62.6
	観察・実験の技能	82.9	75.2	73.5
	自然事象についての知識・理解	77.1	68.8	67.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均より高い。 ○閉じ込めた空気や水について理解している児童が多い。 ○水の温めると体積が大きくなる性質を理解している児童が多い。 ○水の状態変化について理解している児童が多い。 ●電流を強くする乾電池のつなぎ方を理解し、それを説明することのできない児童が多い。	・直列つなぎ、並列つなぎの特徴を復習する機会を設ける。 ・自分の考えや実験結果など、言葉で表現する機会を多く取り入れる。
生命・地球	平均正答率は、市の平均より高い。 ○1年間の動物のようす、植物の成長について理解している児童が多い。 ○月と星についてや星座早見の使い方について理解している児童が多い。 ○折れ線グラフの気温の変わり方から天気を推測することができる。 ●筋肉が縮んだりゆるんだりすることで体が動くことを理解していない児童が多い。 ●容器にふたあると、蒸発した水は出ていかず、内側に水滴がつくことを理解していない児童が多い。	・筋肉のようすについて復習する機会を設ける。 ・常日頃から身近な場面で、水の三態変化について触れることで、実験の結果と身近な事象を結び付けていく。

宇都宮市立清原北小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校の宿題は自分のためになっている」「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」、「授業の中で目標が示されている」、「学習したことを振り返る活動を行っている」の肯定回答率が100%と高い。今後も継続して、めあての提示や振り返りの時間の確保を行い、学習の意義を意識できるよう指導を行う。

○全員が学校の決まりを守っており、学級活動の時間に話し合っクラスの決まりなどを決めていると回答している。

○「難しい問題にであうと、よりやる気が出る」の肯定回答率が市より約20ポイント高い。算数の習熟度別学習などで、発展問題を適宜取り入れ、学習意欲と思考力の向上を図る。

●「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている」の肯定回答率がそれぞれ市より10ポイント以上低い。朝の会や集会のスピーチ、各教科での話し合いの時間に、自分の意見・考えを伝えることと同様に、「聞き方あいうえお」を利用し、相手の話を聞く技能と意識を高めたい。

●「難しいことを失敗を恐れずやっている」「自分の行動や発言に自信をもっている」の肯定回答率が低い。失敗をしたことが次の活動に生かせるという経験につなげたり、頑張って取り組んでいる過程を褒め励ます、声掛けをしたりする。

●「家の人と学校のでできごとについて話している」「家の人と将来のことについて話すことがある」「家の人、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」の肯定回答率が低い。学年だよりや連絡帳等を通して、保護者に子どもの成長の様子や日々の頑張りについて知らせ、家庭での話題にさせていただく。

宇都宮市立清原北小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容